

第3節 よい成績をとるためには

【ベスト3は、「授業をしっかり聞く」(80.2%)、「努力」(79.6%)、「上手な勉強法」(69.0%)である。「生まれつきの能力」(16.1%)、「家族の協力」(10.5%)、「よい学習塾や予備校に行く」(8.4%)は非常に少ない。努力主義、精神主義、個人主義などいくつかの特徴がみられる。】(図2-6、図2-7)

Q10

よい成績をとるためには、次のことはどれくらい大切だと思いますか。
A. 1)~10)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

中学生は、よい成績をとるためにどのようなことが大切だと考えているのだろうか。努力や運など10項目を設定して、4段階評定法(「とても大切」~「ぜんぜん大切でない」)で回答してもらった。ここでは、「とても大切」の割合を指標にして、かれらの学習観・成績観の一端を描いてみる。

各項目を多い順に並べてみると、次のようになる。

①「授業をしっかり聞く」(80.2%)、②「努力」(79.6%)、③「上手な勉強法」(69.0%)、④「人に負けたくないという気持ち」(47.8%)、⑤「教え方の上手な先生」(41.6%)、⑥「自分に合った問題集・参考書」(36.5%)、⑦「運」(19.5%)、⑧「生まれつきの能力」(16.1%)、⑨「家族の協力」(10.5%)、⑩「よい学

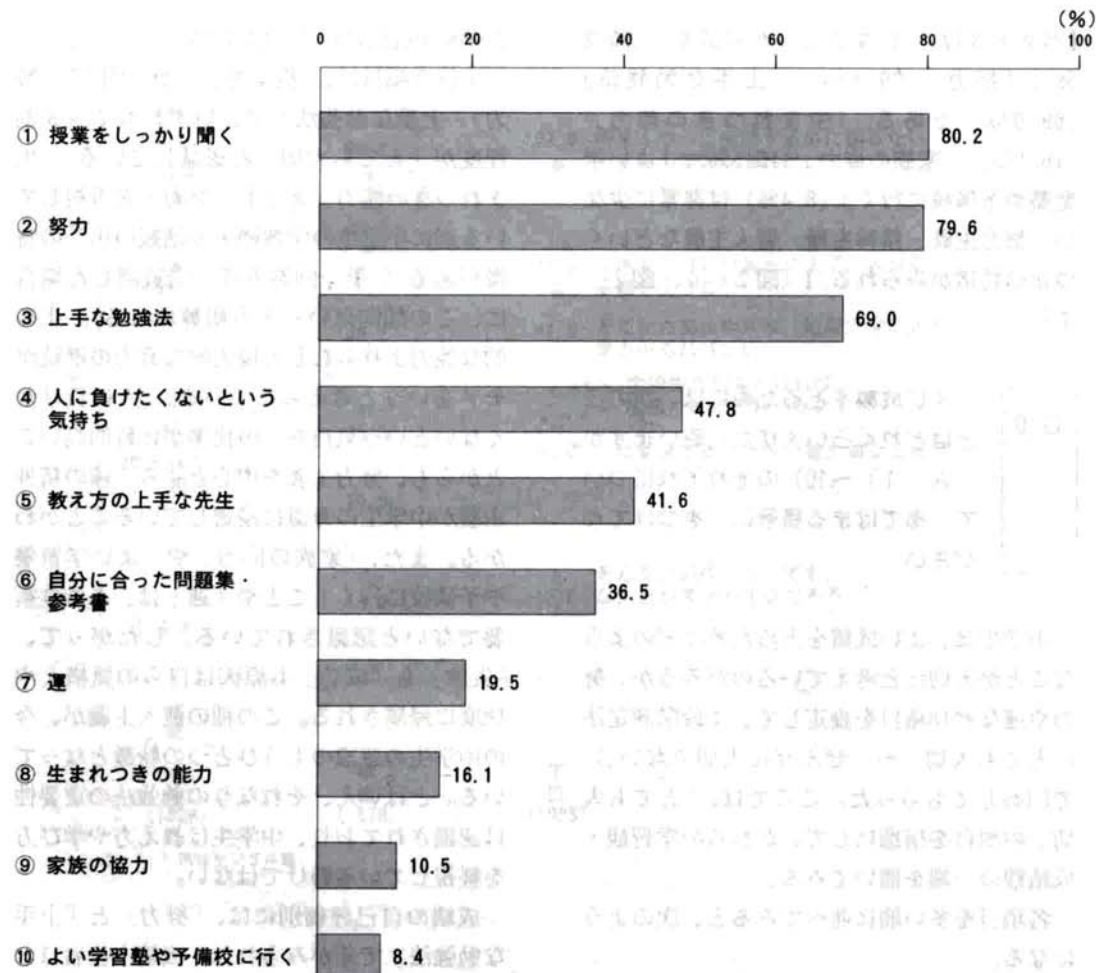
習塾や予備校に行く」(8.4%)。

上位3項目は、「授業をしっかり聞く」「努力」「上手な勉強法」で、いずれも7~8割程度が「とても大切」と認識している。「生まれつきの能力」よりも「努力」を重視している点に中学生の学習観・成績観の第一の特徴がある(「単一回答方式」で質問した場合に、この傾向はいっそう明瞭になる)。生得的な能力よりもむしろ後天的な努力の継続がモノをいうと考えられている。「人に負けたくないという気持ち」の比率が比較的高いことから、努力主義を中心とする一種の精神主義が中学生の意識に浸透していることがわかる。また、「家族の協力」や「よい学習塾や予備校に行く」ことや「運」は、あまり重要でないと認識されている。したがって、「失敗」も「成功」も原因は自らの気構えや態度に帰属される。この種の個人主義が、今の中学生の意識のもうひとつの特徴となっている。とはいえ、それなりの勉強法の重要性は認識されており、中学生は教え方や学び方を軽視しているわけではない。

成績の自己評価別には、「努力」と「上手な勉強法」で差がみられた。成績上位者ほどこれらの要因が重要であるとする傾向がある。

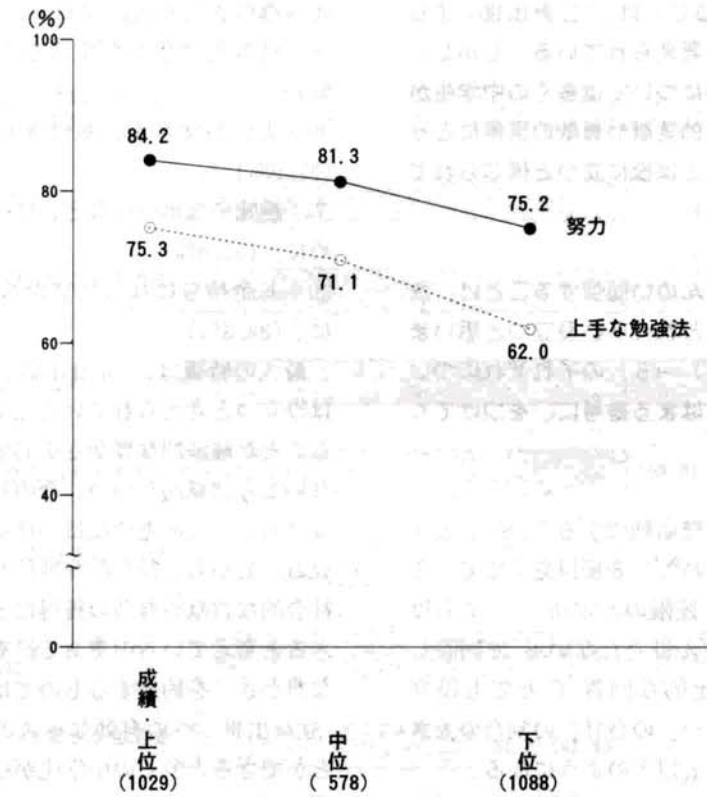
また、「よい学習塾や予備校に行く」ことを「大切である」と考える割合が、地方都市>大都市>郡部の順に高かった。学校外の学習機会の利用状況がある程度投影した結果である。

図2-6 よい成績をとるためには



注1) 数値は「とても大切」の割合。
注2) サンプル数は2755人。

図2-7 よい成績をとるためには (成績別)



注) () 内はサンプル数。